

The
Professional
series
since 2008



Management in the Global Society

グローバル社会における

経営 東京都市大学出身の
有名企業経営者及び
起業家による特別講義

 東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

経営システム工学科
DEPARTMENT OF
INDUSTRIAL & MANAGEMENT SYSTEMS ENGINEERING

特別講義 第7章

「グローバル社会における経営」

～東京都市大学出身の有名企業経営者及び起業家による特別講義～

2017年 全6回

日時: **10月24・31日 11月7・21日 12月5・12日**

18:30～20:50 (開場18:00)

会場: **東京都市大学 二子玉川夢キャンパス**

二子玉川ライズ・オフィス 8階: 東急田園都市線・大井町線「二子玉川駅」下車 徒歩1分

対象: 全学部学生(学部・大学院)、卒業生

司会進行: 東京都市大学 経営システム工学科 教授 松崎吉衛

☆学生対象ガイダンス・まとめ: **10月3日, 1月9日** (会場: 世田谷キャンパス 5時限17:00～)

日程	内容	講演者	所属
☆ 10/3	学生向けガイダンス グローバル経営の課題	松崎 吉衛 氏	元 (株)日立製作所 理事 日立金属(株) 事業役員 現 東京都市大学 経営システム工学科 教授
1回 10/24	社員の成長と会社の成長は一体不可分 ～人口減少社会の企業戦略～	原口 兼正 氏 (S49 通信)	元 セコム(株) 代表取締役社長 現 東京都市大学 客員教授
2回 10/31	経験からわかった"外資系企業で成功 する条件/日系企業で成功する条件"	鈴木 威一 氏 (S41 通信)	元 オランダ フィリップス 副社長 現 (株)エグゼック 取締役会長
3回 11/7	IT業界の歴史とグローバル経営	磯村 康典 氏 (H5 機械)	Oakキャピタル株式会社 執行役員 軽井沢エフエム放送株式会社 代表取締役
4回 11/21	海外コンサル事業と社会貢献につ ながるIE(経営工学)の実践的活用	早川 雄之助 氏 (S45 経営)	元 SONY台湾 Personal Network Company 社長 (総経理) 現 早川生産革新有限公司 社長 (董事長&総経理)
5回 12/5	ビジネストラנסフォーメーション ～求められるICT人材の要件～	佐藤 正春 氏 (S46 経営)	元 (株)富士通総研 代表取締役社長 現 チェンジ・エージェント・オフィス正春 代表
6回 12/12	日米憲法と社会構造と 知財制度の違い	服部 健一 氏 (S41 機械)	Westerman, Hattori, Daniels & Adrian, LLP 筆頭 Partner 米国特許弁護士・法務博士・日本弁理士
☆ 1/9	学生向けまとめ・レポート	松崎 吉衛 氏	前出

※講師のご都合により、講演者が変更になる場合もあります。

学生が産業界トップの話聴く意義

東京都市大学
知識工学部 経営システム工学科
教授 松崎 吉衛

“君たちは直ぐ経営者になるわけではないが、経営者が何を考えているかは新入社員のところから知っておいた方がよい” “社長が一番革新的だ。何故なら社長は常に会社の成長を考えるのが仕事なので、革新的にならざるを得ない” これは、本特別講義の中で講師が話されたワンフレーズですが、学生にとっては驚きのようです。

学生の頭の中にある社長像は、若手社員には無縁な存在で立派な役員室の奥で保守的にふるまう人のようです。学生のレポートを読むと、「これまでの社長像が覆された!」とか「若手でも会社を動かす仕事ができると思った!」といった、実社会に対する驚きや働くことへの期待を感じるものが多くあります。

現代は、社会で働くことに夢や興味が持てるポジティブな情報が少ないように思います。しかし、社会で活躍されている人は、とてもポジティブに仕事をしておられます。

この特別講義は「グローバル社会における経営」をテーマに、本学出身の経営トップを講師に迎えて、和気藹々とした雰囲気の中でビジネス社会を学ぶものです。この講義で、企業のグローバル展開の課題を学んだり、経営管理の仕掛けを学ぶことも意味ありますが、一番重要なことは、生き活きと面白く仕事をされている人を間近に見て、社会でポジティブに働く意識が高まることではないかと思えます。“ラクして稼ぐことはできないが、楽しく稼ぐことはできる” “面白い仕事をしたいと考えるのではなく、面白く仕事をする” これも多くの学生が成程と思った言葉です。

社会で活躍するポジティブな学生を育てる一助となることが本特別講義の目的です。

本講義は 2011 年に、当時経営システム工学科教授であった鈴木威一先生が創設されたものです。鈴木威一先生はグローバル企業フィリップスのオランダ本社 Vice President などを歴任され、日本の若者に“もっと世界で活躍してもらいたい”との思いでこの特別講義を創設されました。これは、講師をお引き受け頂いている先輩経営者の思いでもあります。

この原点の思いは、本学発行の「TCU QUARTERLY No.180 2011.7」に掲載されていますので、昨年度版に引き続き再掲いたします。

『グローバル社会における経営』をテーマに 本学出身の経営トップによる特別講義を開催



東京都市大学
知識工学部 経営システム工学科
教授 鈴木 威一

1943 年東京都生まれ。66 年武蔵工業大学工学部電気通信工学科（現・東京都市大学知識工学部情報通信工学科）卒業。同年沖電気工業株式会社に入社。沖タイランド代表取締役副社長、インターナショナルレクティブファイアー（IR）社、Far East 社代表取締役社長、IR（USA）社副社長などを経て、フィリップス（オランダ本社）副社長に就任。定年後の 2004 年、株式会社エグゼクティブ・コンサルティングを設立し、代表取締役に就任。株式会社エグゼック取締役会長も兼任する。10 年 4 月本学教授に就任し、国際的に活躍できる経営者の育成に尽力している。早稲田大学理工学術院経営システム工学科非常勤講師兼プログラムディレクター。

社会人と共に学び、語り合う環境を。大学と社会をつなぐ新たな試み

2011 年 4 月 19 日から 7 回にわたり開講された、知識工学部 経営システム工学科の特別講義『グローバル社会における経営』。各界で活躍されている本学出身の経営者を毎回講師としてお招きし、東京都市大学渋谷サテライトクラス※を利用して行われました。

技術と積極性を兼ね備えた人材の養成を目的に、企業のグローバル化に対する取り組みを経営者自身の言葉でお話いただいたこの特別講義。実施に向けて尽力されたコーディネータの鈴木威一教授に、開講を思い立たれたきっかけとその意義についてうかがいました。

※「東京都市大学渋谷サテライトクラス」は、本学と早稲田大学との共同大学院「共同原子力専攻」の教育・研究開発の拠点として、学校法人五島育英会法人本部のある五島育英会ビル内（渋谷区道玄坂 1-10-7）に設置されている施設。

学生自身が運営し先輩たちと共に学ぶ

この特別講義は、もともと知識工学部 経営システム工学科 2 年生の授業として設けられていたもの。これを学部 2 年生だけではなく他の学年や卒業生にまで対象を拡大し、外部から講師を招こうと発案したのが鈴木威一教授でした。

「経営工学を学ぶには、常に社会と接点を持つ必要があります。アメリカでは日本で言う所の " 社内教育 " を大学が行って即戦力を養成し、社会に出てから必要に応じて大学に戻り、MBA などの資格を取得するというのが一般的です。一方日本の場合は産学の連携が希薄で、技術系の MBA に当たる MOT (Management of Technology) を養成する体制も整っていません。このままでは有能な人材が日本を離れてしまうという危機感がありました」(鈴木教授)

オランダに本拠を置く多国籍企業・フィリップスの本社副社長を務めるなど、海外でのビジネス経験が豊富な鈴木教授。在職時にはさまざまな国籍の部下と仕事をされたそうですが「日本人の若者が一番元気がなかった」とおっしゃいます。

「能力がないわけではないのに、新事業や難題にチャレンジしようとする気概がない。人を押しつけても前に出ようとする他国の若者たちの中では埋没しがちです。今や製造業や技術系の企業は外国に出るのが当然の時代であり、グローバル化は他人事ではないということを学生たちに理解してもらいたいと痛感しました。それには現場の先輩たちに具体的な話をしてもらおうのが一番だろうと考え、『グローバル社会における経営』というテーマを設けたわけです」

今回は学生 70 名・卒業生 30 名を定員とし、講師には IT 企業や金融、製造業などの本学出身経営者を招聘。受講希望者が定員を上回るほどの好評を博しました。

「社会に出て数年すると、再び学問への意欲が湧いてくる。そんな人たちにチャンスを与えることにこそ、大学としての価値があると思います。この講義はできるだけオープンにして、先輩後輩が共に学ぶ場にしたいと考えました。講義終了後には世代・業種を越えた交流会も開いており、学生が年の近い先輩と接する機会を作りました。渋谷サテライトクラスは立地も良く、卒業生にとっても仕事帰りにアクセスしやすい場所。在校生にとっては人脈を広げるチャンスにもなると思います」

特別講義は学生の自主運営を基本としており、会場の設置から講師との連絡まで学生自身の手で行われました。

「予算ゼロからのスタートでしたので、サテライトクラスを有効活用させてもらい、学生が運営する形を取りました。毎回出席者からアンケートを回収して、その集計や分析も学生が担当し、受講者の要望への対応や反省点について何度もディスカッションを行いました。講師である経営者と直接お話をする機会もあり、学生たちは短期間で驚くほどの成長を見せます。講師の方にも " 若い人と接して勉強になった " と評判が高かったようです」

学生と企業双方にメリットのある講義を

鈴木教授は本学就任前から旧武蔵工業大学出身の経営者による交流が少ないことを痛感し、3 年前に情報交換を目的とする会を仲間と共に設立。今回の講師は、ほとんどがこの会のメンバーとのこと。

「技術系の人間が経営者の立場に置かれると、経理や経営に関する知識の不足を感じるようになります。本学出身の経営者同士が交流することで、知識や経験を共有できればと考えたのが会を設立するきっかけとなりました。この会には経営者に母校への関心を持ってもらうという目的もあります。私個人も経験がありますが、企業のトップは社内の目もあって自分の母校だけを特別扱いすることに抵抗があるため、卒業以来大学に来たことすらないという方が多いのです。今回の特別講義のように大学側からの要請ということであれば、気軽に足を運んでいただけるのではないかと考えました」

中には講義に際して自社の就職担当者を同行させ、学生に就職に関する説明をしてくださる経営者もいらしたとか。「開講前は " 渋谷まで講義のために出向く学生などいない " という声もありましたが、蓋を開けてみると毎回満席。企業側も意欲ある学生と接することができるというメリットがあります。一方通行ではなく、双方にメリットのある講義にするのが理想ですね」

鈴木教授は現職就任当初から「日本の若者を元気にしたい」という思いを強くお持ちだったとか。「大学は単位を取りに来る場所ではなく、本当に学びたい講義を受け、成長するための場。この理想に少しでも近づくことができれば」と笑顔で語って下さいました。



社会人受講者との交流

本特別講義は社会人も参加できる時間帯に開講しており、卒業生の社会人も参加されています。2015年度の社会人受講者の卒業学科は、経営工学科、建築学科、電気工学科、電子通信工学科、機械システム工学科と多岐にわたり、夫々の事業分野や専門分野からの活発な討議がありました。

社会人受講者と経営者の討議は学生には難しい部分もありますが、多少分らなくても社会人の会話を聞くことにより学生は大いに啓発されます。

社会人受講者は、自己啓発として新たな知見や人脈を得る目的と共に、後輩学生に自分の経験を伝えてやろうという気持ちを持って参加されます。学生にとってこのような社会人受講者との交流も刺激となり勉強となります。

東京都市大学は就職に強いと言われますが、これは卒業生に対する企業の評価が高いことと共に、卒業生が学生の面倒をみてやろうという気持ちの豊かさが良い循環を生んでいるのではないかと思います。

本特別講義に参加された社会人受講者の中から大先輩の方々の感想と学生への言葉をご紹介します。



社会人受講者と学生の交流

加藤 友之 氏

S40 経営工学科卒, 3 期生, 柏三水会



経営者の方々のお話を聞いて、いずれの方も学生時代から何かを成そうという志を持っておられたと感じた。大きな仕事をする人は、若い頃からきらりと光るものがある。

自分は学生の時、工場に送り込まれて卒業研究をしたことが非常に良かった。座学だけでなく、現場の中で勉強をして欲しい。

矢崎 克美 氏

S54 経営工学科卒, 17 期生, 経友会 (学科同窓会) 会長



学生時代に恩師から言われて心に残っている言葉に“常に理想を描け”、“はったりと思われようが大きな志を言え”がある。

学生時代から成し遂げたいと思う目標を持って、PDCA をきちんと回し、成功するまで諦めなければ必ず目標を達成できる。

日本の経営管理は世界に誇れることが沢山あるので、自信を持って勉強して欲しい。

鈴木 典幸 氏

S52 経営工学科卒, 15 期生, 経友会 副会長



学生時代の心残りは海外に行かなかったこと。旅行でよいからもっと行っていたら、社会に出てから抵抗無く海外活動が出来たと思う。

自分は海外に行ってみて、日本の常識が通用しないところや日本の良さに気付いた。気づきは早い方がよい。1年生の時から色々な形で海外に親しむとよい。

金子 正樹 氏

S55 経営工学科卒, 18 期生, 経友会 副会長



私自身大学の在籍当時は、実社会を知らないままでの生活でした。社会人になりメーカーに就職して色々な場面で、学んだことと現実が結びついてくると仕事が面白くなってきてやりがいが出てきました。現役学生の皆さんには、特別講義を聴講し異業種の先輩で経営に携わっている方の苦労話を伺えることは、将来の自身のイメージを早くから醸成できる絶好のチャンスだと考えます。(どのように目標設定しクリアしていったかを現実的に聞きました)

目標を作って苦労して達成 (小さい目標からでも) していく事に挑戦してほしいと思います。



先輩社会人と学生の活発な交流
(写真は経友会と経工会の共催による新入生歓迎会)

“日経BPムック「変革する大学」シリーズ EX 東京都市大学”に紹介されました。

特色ある
授業

知識工学部経営システム工学科◎特別講義 グローバル社会における経営

04

東京都市大学出身のトップが 企業経営の現場を語る

各界で活躍する東京都市大学出身の企業経営者や起業家を毎回講師に迎え、企業のグローバル化に対する取り組みを経営者自身の言葉で語ってもらう。

本特別講義が、本学の特徴を紹介した「変革する大学」シリーズ EX 東京都市大学”に紹介されました。(2017年6月発刊)

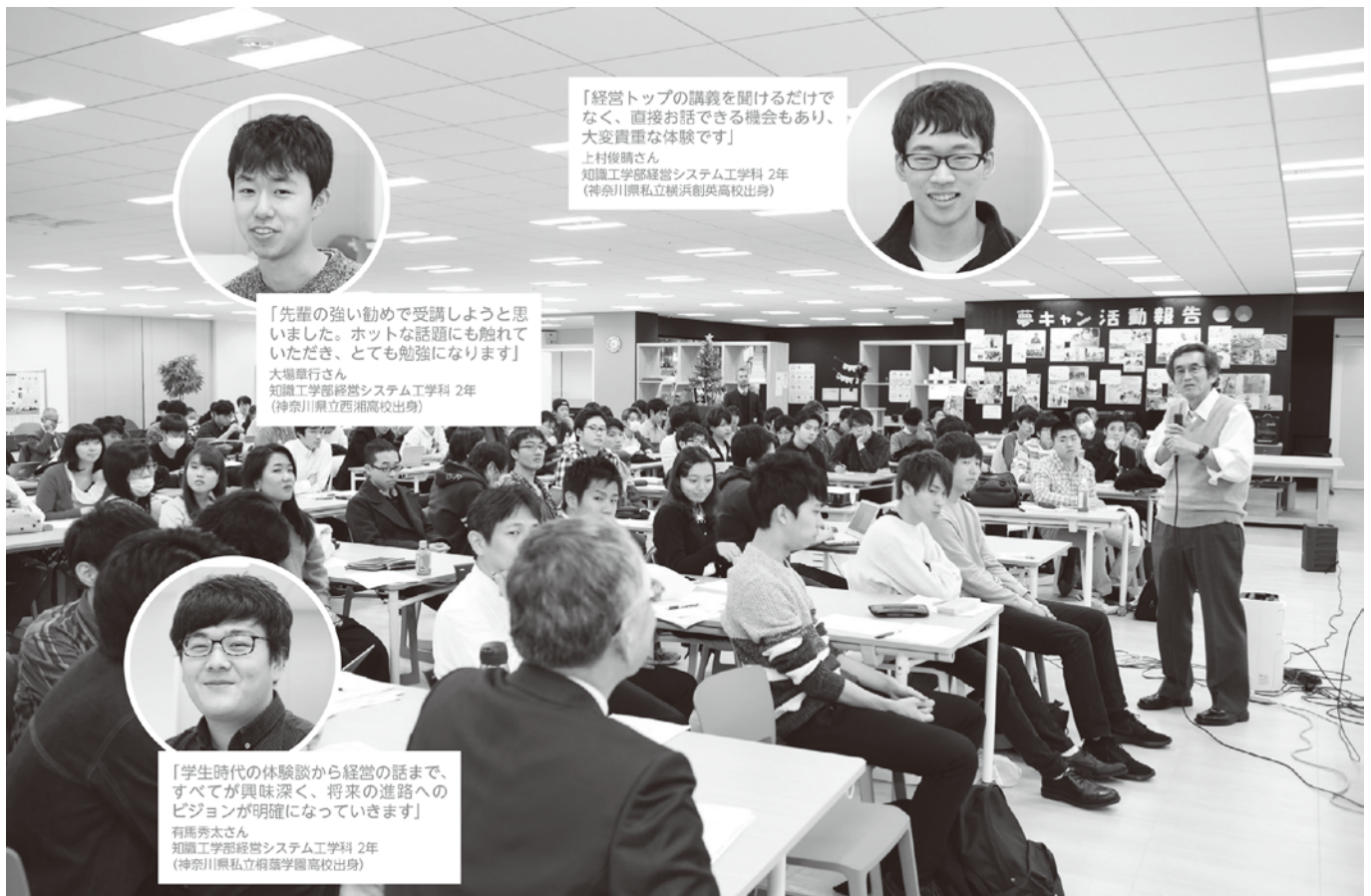
“東京都市大学出身の経営者を講師に迎え、グローバル社会と経営をテーマに自身の経験を語っていただき、ビジネス社会の実態を学べる生きた授業”という本講義の狙いの紹介からはじまり、取材当日に講師をされた Westerman Hattori Daniels & Adrian 法律事務所の筆頭パートナーを務める服部健一氏の“私が一番伝えたいことは、日本がいかによい国かということ。科学技術力、伝統や文化を大切にする心、思いやりなど、海外に出てみると気づくものです”という講義への思いや、本講義の共催者である経友会（経営システム工学科同窓会）会長の矢崎克美氏の“本学の先輩たちは努力家で、猛烈に働く方々が多いので、そうした情熱や意欲が少しでも伝わればよいと考えています。学生諸君がいろいろな分野の話聞いて、職業選択の視野を大きく広げてくれることを期待しています”といったメッセージが紹介されています。

また、二子玉川夢キャンパスでの授業風景と共に、学生団体として本講義の運営に携わる「経工会」の会員学生のコメントも掲載されています。



発行：日経BP社

本書籍には、東京都市大学の特徴や魅力が豊富な事例で紹介されています！



知識工学部経営システム工学科◎特別講義 グローバル社会における経営

東京都市大学出身のトップが 企業経営の現場を語る

各界で活躍する東京都市大学出身の企業経営者や起業家を毎回講師に迎え、企業のグローバル化に対する取り組みを経営者自身の言葉で語ってもらう。



松崎吉衛 Kichie Matsuzaki
知識工学部経営システム工学科 教授
1975年慶應義塾大学工学部卒業、1977年同大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程修了。博士(工学)。日立製作所理事モトづくり技術事業部事業部長、日立金属事業役員技術センター長、北海道大学客員教授などを経て、2014年から現職。主な研究分野は、経営管理システム、グローバル経営。

「経営トップの話を直接聞ける機会は貴重。ビジネス社会の実際を学べる生きた授業です」(松崎)

知識工学部経営システム工学科の「特別講義」は、東京都市大学出身の経営者を講師に迎え、グローバル社会と経営をテーマに、自身の経験を語ってもらうという授業である。後期の集中講義として、全8回にわたって二子玉川キャンパスで開講。毎回、異なる講師を招く。そのため、講義内容は、製造業、ICT(情報通信技術)、サービス、知財などさまざまな業種にわたる。

「生きた言葉」から
マネジメントを学ぶ

特別講義は、2011年度に開講された経営システム工学科の授業だが、全学部学科の学生および卒業生が受講できる。企業経営者や起業家による講演と討議という特徴ある授業スタイルとなっている。授業を担当する知識工学部の松崎吉衛教授は語る。



「先輩たちの情熱や意欲を感じ取ってほしい」と語る経友会・会長の矢崎克実氏



服部氏の同僚であるマイケル・カリディ氏は「トランプ大統領の下での米国特許制度の行方」を英語で講演



教壇に立った服部健一氏。学生時代から米国で特許弁護士になるまでの半生を語った

特別講義は学生の自主運営を基本としており、会場の設置から講師との連絡まで学生の手で行われる。

世界で活躍する先輩の姿に
学生の向上心が高まる

取材当日は、米国で特許法律事務所筆頭パートナーとして特許法律事務所経営と実務に携わる服部健一氏による「米国憲法解釈にみる米国社会としての知的財産の特殊性」と題した講義が行われた。

服部氏は1966年に工学部を卒業し、特許庁に入庁。しかしグローバルな活動への意欲とチャレンジ精神から、同庁を退官して渡米。日本人で初めて米国の特許弁護士資格を取得したという経歴の持ち主だ。今回もこの特別講義のためにワシントンDCから駆けつけた。

「若い人たちの交流は私にとっても大いに刺激になるし、紆余曲折があった自分の学生時代の話にも、こんな生き方もあるのかと興味を持ってもらえればと思います。講師を務めています」と服部氏は語る。

「私が一番伝えたいことは、日本がいかにすごい国かということ。科学技術力、伝統や文化を大切にすること、思いやりなど、海外に出てみると気づくものです(服部氏)」

講義では、服部氏の半生から、「米国の知財制度の特殊性とその理由」

「授業の発案は、当時、本学科の教授だった鈴木威一先生によるもので、先生が2013年度に退任された後も継続しています」鈴木氏は、かつてフィリップスの本社副社長を務めるなど、海外でのビジネス経験が豊富だった人物。「若者に世界で活躍してもらいたい。それには、現場の先輩たちに具体的な話をってもらうのが一番の思いから開講しました(鈴木氏)」

授業は、夜の6時半からという時間にもかかわらず、回を重ねるごとに受講者が増え、2016年度は約120人の学部生、大学院生が受講した。

経営という点、経営者による雲の上の仕事の想像しがちだが、現場の生産管理や製品開発など、経営システムを総合的に学び、高いマネジメント能力を身に付けた人材を育成することが経営システム工学科の目的の一つだ。その知識や技術を理論面だけでなく、経営現場に携わる人たちによる生きた言葉を通じて学べることに、この授業の意義がある。

「学生にとっては、日本経済をリードする経営トップであるにもかかわらず、自分と同じような学生時代を過ごしていたことを知り、自分に自信を持つきっかけになることも多いようです」と松崎教授は語る。

まで、多様なテーマに及んだ。

服部氏と同僚のマイケル・カリディ氏による講義「トランプ大統領の下での米国特許制度の行方」では、学生との英語による質疑応答が交わされるなど、まさに国際ビジネスの現実を垣間見ることのできる授業となった。

授業のさらなる充実のために
卒業生が力強くサポート

講義は、武蔵工業大学出身の経営者や経友会(経営システム工学科同窓会)が、講師の引き受けなど力強いサポートを続けている。同会の会長を務める矢崎克実氏(1979年経営工学科卒業)は、時間の許す限り出席して講義に耳を傾け、自主運営する学生たちを温かいまなざしで見守っている。

「本学の先輩たちは努力家で、猛烈に働く方々が多いので、そうした情熱や意欲が少しでも伝わればいいなと考えています。学生諸君がいろいろな分野の話を聞いて、職業選択の視野を大きく広げてくれることを期待しています(矢崎氏)」

学生たちには、各回の講義に関するレポート作成が課せられる。大学時代をいかに過ごすか、実社会で仕事をすることへの心構えなど、多くの学生が将来に対する自覚の芽ばえを、授業の収穫として実感している。



「経営トップの講義を聞けるだけでなく、直接お話できる機会もあり、大変貴重な体験です」
上村俊晴さん
知識工学部経営システム工学科 2年
(神奈川県立横浜創英高校出身)



「先輩の強い勧めで受講しようと思いました。ホットな話題にも触れていただき、とても勉強になります」
大場卓行さん
知識工学部経営システム工学科 2年
(神奈川県立西湘高校出身)



「学生時代の体験談から経営の話まで、すべてが興味深く、将来の進路へのビジョンが明確になっていきます」
有馬秀太さん
知識工学部経営システム工学科 2年
(神奈川県立桐蔭学園高校出身)

日米の特許業務の違いなどの解説を行う一方で、テニスに打ち込んだ学生時代の話など、先輩ならではの講義は興味は尽きない

グローバル社会の マネジメント 技術を学ぶ



知識工学部

経営システム工学科

TOKYO CITY UNIVERSITY
FACULTY OF KNOWLEDGE ENGINEERING
DEPARTMENT OF INDUSTRIAL & MANAGEMENT SYSTEMS ENGINEERING

今は情報とマネジメントに関する専門的な知識を持った技術者が要求されています。そして固有技術だけを持った技術者ではなく、経営の観点から世の中の動きや問題を把握し、情報処理技術を活用することにより付加価値の高い製品やサービスあるいはシステムを生み出し、マネジメントすることができる人材の養成が必要です。本学科では、経営活動のための情報活用技術に特化した教育を行い、起業家マインドを持ち、より横断的な知識と技術力を持って、グローバルな視点から経営を考え、様々な問題に対して提案を行うために、国際競争力のある高付加価値な製品やサービスあるいはシステムを創出し、その研究、開発、設計、生産をマネジメントできる技術者を育成します。



卒業後の進路

活躍の場は、一般企業、研究・教育機関、放送局、官公庁、自治体などさまざまです。

分野としては、研究、企画・開発、経営管理、システムインテグレータ、製造、生産管理、品質管理、品質保証、SE、マーケティング、販売など。

領域としては、情報産業（ソフトウェア開発、マルチメディアデザイン）、電気機器製造業の他、自動車、印刷、物流、流通、シンクタンク、金融など、多岐の産業にわたります。

系統

学生が選択した研究分野によって、以下の4系統の進路が予想されます。

◆**システム・情報系** 情報処理、コンピュータシステム、ソフトウェア関連ほか

◆**コンサルティング系** 総合研究所（シンクタンク）、コンサルタント業、人材派遣関連ほか

◆**マネジメント系** 飲食・サービス、運送、機械、倉庫、建設、金融・証券、電気電子、卸売・小売、電力・ガスほか、あらゆる分野が対象

◆**製造メーカー系** 自動車、エンジニアリング、輸送用機器、電気電子機器、その他製造業

職種

カスタマーエンジニア、システムエンジニア、生産管理技術者、品質管理技術者、テクニカルコンサルタント、環境コンサルタント、プログラマー、システムインテグレータ、ファイナンシャルプランナー、セールスエンジニア、エンジニアリングコンサルタント、ITエンジニア、教員・公務員、研究員ほか

進学先

大学院修士・博士後期課程（システム情報工学専攻、情報工学専攻など）へ